

2020/12/18

(うと Q 世話し Never give up の後に何故 challenge ではなく try, try, try なのだろうか?)

弊社の外国人従業員にハッパをかけるときに

Never give up (諦めんじゃねえぞ)」

と吠えた後、自然と次に出てくる言葉は、自分の場合

「try, try, try」

です。

世の中でよく使われる「challenge」という言葉はなぜか出てきません。といより大抵の場合、その言葉が咄嗟には全く浮かんでこないのです。思考野に。

Challenge といえば「チャレンジ精神」

Try といえば、どこやらの学習塾名かラグビーのスクラム「トライ」タッチダウンの「トライ」

Challenge を和訳すれば「挑戦する」文章にすれば「戦いを挑む」です。

一方 try の方は「試みる」それを続けて「Try, try, try」といえば「やってみろ、やってみろ (いろんな方向からいろんな事を) 試してみろ」となります。

ですので、challenge「戦いを挑む」と言うほど大げさではないし、挑むからには上目方向の「上昇志向」になりがちですが、try「試みる」には上下左右正方斜方の全方位 360 度新湯売る方向に目が向きそうで、その分チャンスが多いような気がするからかもしれません。

この二つ、即ち challenge と try を映像化すると

Challenge はロッククライミングかフェンスよじ登り競争。

Try の方は、フィールドを縦横無尽に駆け回る、将にラグビーの映像。

で、この感覚的な差は一体自分の中で何を意味しているのだろうと考えてみたところ、思い当たったのが

「失敗後の後遺症」の差ではないかと。

Challenge のイメージは「ハードルが高い」や「敷居が高い」からくるのか「高いところ」からの落下で、落ちる(失敗する或いはしくじると)とても痛そうで立ち直りに多大なエネルギーを要しそうな感じから、なんとなく「一回こっきり」のチャンスしかないような気がするに対して

Try の方のイメージは、スクラムハーフから来ているのだろうと思うのですが、押しつ押し戻されつで、何回でもできそうですし、何回でも巻き返しややり直しがききそうな気がするからかもしれません。

それこそ「何回でもチャレンジできそうな」より幅広いチャンスが存在し(残されて)いる様な気がしているからかもしれません。

Never give up の後に、無意識に「try, try, try」という言葉が出てくるのは。

追記)

確かにチャレンジとトライでは語の長短による口にしやすさとリズム感の有無はあるかも

しれないなどは思っておりますけども。